第５学年　総合的な学習指導案

指導者　金澤　正治

１．日　時　　２００７年2月１６日（金）　５校時
２．対　象　　５年１組　　男子１９名　女子１９名　計３８名
３．場　所　　５年１組教室
４．単元名　　「みんなで話し合おう」　－ともだちってなに？－
５．ねらい
・お互いに疑問を出し合い、それに向き合い楽しんで対話をする。
・対話を通して、ともだちについての新しい考えをみつけることができる。
６．指導にあたって
・先生は自分のことを見守ってくれ、分かってくれるという思いを子ども一人一人が持てるようになると、クラスの雰囲気が穏やかで柔らかいものになる。そして、子ども達は語りだす。新学期からようやく二ヶ月が過ぎ、少しずつ話しをしてくれる子が増えてきている。

先生が自分のことを見守ってくれ、分かってくれるという思いを一人一人が持てるようにと取り組んできたがなかなか難しかった。自分の理解を超える反応を見せる子どもに対するとまどいがあり、ありのままの状態を受け入れにくいと感じる子が多くいたからだ。

A 君が転校してきた。彼もこだわりがはげしく極端な反応をみせるので、どう接すればA 君のためになるかを考えた。まず、私は彼以外の子ども達により優しく接するようにした。また、大きな声に反応するA 君がいるために、私は大きな声で高圧的に話さないように気をつけた。穏やかに話しかけることが増えた。すると、クラスの子どもの中に落ち着きがみられるようになった。そんな子ども達の変化が私に自信をもたらした。私自身が受け入れにくかった子どもを理解し、認めることができるようになった。まさに、A 君のお陰である。

自然学校のキャンプファイヤーでするクラスの出し物を決める時に、子ども達は言いたいことをぶつけあいながら、何とか出し物を決めることができた。3 学期の球技大会に向けて、チーム毎に話し合いを重ね、練習に取り組んだことを通して、お互いの関係がより親密になった。

授業での話し合いでは、子ども一人一人の発言はつながりを見せるようにはなったが、話す子どもが一部の子どもに限られてしまいがちである。

・今回の授業では、内田麟太郎作、降矢なな絵の『ともだちや』という絵本を取り上げる。

「ともだちや」という設定は、友だちとは何かを考えるヒントになる。なぜ友だちならお金をとらないの？などの疑問を子どもたちが持ちやすいと考えるからである。

・国語では、詩を読み味わってきた。私は丹念に子ども達の発言を聞くことを続けてきた。子ども同士の発言がつながってきた。それとともに心温まる発言を聴くことができるようになった。これまで、どの教科の授業においても、子どもの発言に丹念に耳を傾けてきた。そのおかげで、子ども同士の意見がつながるようになり、聴き合える関係が育ってきた。今回の授業でも、クラスのみんなで絵本の文について学ぶことにより、みんなで聴き合い、対話することの愉しさを育んでいきたい。

国語や理科や社会などの教科における話し合いでは、必ず教科のねらいにそった正解を問うことになってしまう。道徳の時間においても、子ども達は、何かよいことを発言しないといけないという気持ちを持つことになりやすい。今回の授業では、あらかじめ仕組まれた答えを言い当てる話し合いではなく、自分が納得した意見を話すようにしたい。また、友だちの意見を聞き、自分の考えを振り返りながら、お互いにやりとりする対話ある授業にしたい。また、子どもの持つ疑問を大切にしながら、それを生かして話

し合いを進めていきたい。疑問に向き合うことで一人一人の考えを見つめ直させたい。今回の対話を通して、子ども達が自分の考えを磨き、また、新しい考えを発見できることを願っている。

７．本時の展開

学　習　活　動	指導上の留意点
１．「ともだちや」の話を聞いて、内容をつかむ。	・『ともだちや』の抜粋を読み聞かせる。こどもとの対話を通して内容を理解させる。
２．聞いた話でおもしろいことなどを話す。	・正解を話さないといけないと身構えさせるのではなく、自由に話せるように配慮する。笑顔で子どもの話を聴き、進行役に徹する。 ・子ども達の疑問を生かして、今日のテーマに集約できるように話し合いを進行する。
３．「ともだちって何？」について話し合う。	・意見の対立を起こさせ、話し合いをもりあげる。 ・国語の時間ではないので、最初の読み聞かせた話から離れた意見も認める。
４．話し合いを通して、新しく発見したことを分かち合う。	・発言はしなかったがよく話を聴いていた子どもに尋ねてみる。
５．今日の振り返りを書く。	

『ともだちや』　　内田　麟太郎　作　　〈あらすじ〉

一時間１００円でともだちになってあげる「ともだちや」になることを思いついたキツネ。

「えー、ともだちやです。ともだちはいりませんか。さびしいひとはいませんか。ともだち　いちじかん　ひゃくえん　ともだち　にじかん　にひゃくえん」

最初のお客は「ひとりぼっちの食事はつまらん」というクマだった。キツネは苦手なイチゴを一緒に食べ、２００円受け取る。

次にキツネを呼んだのは、オオカミ。

「おい、キツネ、トランプのあいてをしろ」

トランプはオオカミが３回勝って、キツネが１回勝ちました。

「あのう・・・」キツネはもうしわけなさそうに手をさしだしました。

「なんだい、ともだち」

「まだ、おだいを　いただいてないのですが・・・」

「おだいだって！お、おまえはともだちから金をとるのか、それがほんとうのともだちか」

とオオカミは目をとがらせました。

「ほんとうの　ともだち？」とキツネ。

「そうだ、ほんとうの　ともだちだ。おれは　ともだちや　なんかよんだんじゃ　ないぞ」

「それじゃ、あしたも　きて　いいの？」

「あさってもな、キツネ」